

好天下3・26チェルノブイリデー —野党共闘を広げ、安倍政権退陣、原発ゼロ実現の政権を—

4月中旬を思わせる好天下、チェルノブイリ原発事故から33年11カ月目の3月26日（木）JR札幌駅前広場で8団体から13人が参加し、「チェルノブイリでは今も30キロ



圏内は立入禁止、居住禁止の厳しい規制が続いています」「福島では原発事故から10年目を迎えています、いまだに4万人を超える県民が避難を強いられ、汚染水の流出も止まらず事故収束の目途も立っていません」「原発と人間社会が共生できないことは明らかです」「原発がなくても電気は足りています」「2年前の3月、野党4党が衆議院に原発ゼロ基本法を提出しましたが、自公の反対で一度も審議されないままです」「こんな理不尽なことはありません」「今度の総選挙では、市民と野党の共同を広げ強めて、安倍自公政権を

退陣に追い込み、原発ゼロを実現する政権をつくりましょう」「泊原発を再稼働させず、廃炉に追い込みましょう」「泊原発の再稼働に賛成か反対かのシール投票にご協力ください」「原発ゼロ基本法案の中身をわかりやすく書いたカラーリーフをお読みください」などと呼びかけました。

「今福島の映画を見てきたところです。やはり原発はダメ。泊原発の再稼働にも反対です」と二人連れの若い女性がしっかり語ってシール投票しました（写真 右）。

この日は、約30分の行動で、再稼働反対が54人、賛成が8人でした。マイクを握ったのは、道民連の木幡秀男広報部長、共産党の畠山和也前衆議院議員、三上友衛道労連議長、米谷道保道原発連代表委員の各氏でした。



チェルノブイリ原発大事故34周年記念学習講演会

「チェルノブイリと福島を考える」

◇日時 4月25日（土）午後2時～午後4時

◇会場 札幌エル・プラザ2階環境プラザ 環境研修室1.2

◇講師 **加藤幾芳** 北大名誉教授

— 資料代300円 —

ご協力をお願いします